

「神様の救いの約束」

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

(ヨハネの福音書 3 章 13～21 節)

ヨハネの福音書 3 章は 2 つに分解されます。① 1～21 節、ニコデモとの対話、② 22～36 節、バプテスマのヨハネの証言。

イエス・キリスト様がこの世に来られ、十字架に架かって贖いの御業を完成されたのは、信じる者に「永遠のいのちを与えるため」でした(同 3:16, 17:2)。イエス・キリスト様は「事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせまう」と約束されたのです(同 6:40)。ひとりの青年が「永遠の命を得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか」(マタイ 19:16, マルコ 10:17, ルカ 18:18)と永遠の命を行いによって得ようとしたのですが、律法を守ることによって是不可能な事を知り失望して去って行きました。ただ「信じる者がみな、…永遠のいのちを持つためです」(ヨハネ 3:15)。「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです」(同 17:3)。

イスラエルの民がエジプトを脱出して荒野の旅をしている途中、民は我慢ができなくなり、「なぜ、あなたがたは私たちをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこのみじめな食物に飽き飽きした」と言ってモーセに逆らったのです。すると主は民の中に燃える蛇を送られたので、蛇は民にかみつき、多くの人々が死んだのです。その時、民は「私たちは主とあなたを非難して罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるよう、主に祈ってください」と頼んだのです。そこでモーセが祈った時「あなたは燃える蛇を作り、それを旗さおの上に付けよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる」と仰せられたので、モーセはその通りにしたのです。すると「もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きた」のです(民数記 21:4-9)。

イエス・キリスト様はすべての人のために十字架に架かり、一人ひとりの罪の刑罰を受けて下さったのです。その功によって一人ひとりの罪が赦され、永遠の命を与えられるのです。ニコデモも「新しく生まれなければ神の国を見ることができない」と言われました。主を信じて救いに与ろう。